

具氏博物學

須川賢久譯

四

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
自然科學部		
生物學部		
綴記	款	項
目次		
全 10 冊 / 內第 4 冊		
分類 番號	第	號
25471 460.0		

校學範師岡福

博物學

一般

4
10 冊 / 內

T1A1

46

Su27g

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 6 7 0 6 a

福岡教育大学蔵書

福岡教育大学
図書印
校所

第四篇

動物界

上條既ニ宇宙間ハ地球太陽系恆星等ヲ造構ヤ
ル物ト其含蓄ヤル物トヲ包括スルコトヲ論説
セリ今其宇宙間ノ一地球ノミヲ論ズルハ則地
球中ニハ三界ヲ含有ス礦物界植物界動物界是
ナリ而シテ礦物植物ノ二界ハ既ニ記載セリ故

具氏博物學卷之四

須川賢久 譯

田中芳男 閱板

明治九年九月

卷四

具氏博物學

文部省

今茲ニ諸動物ヲ含蓄サル處ノ一界ヲ論ヤン
夫動物トハ生命ヲ保存シテ常ニ自由ノ運動ヲ
爲スヘキ勢力ヲ具有スル物ノ謂ナリ此諸動物
ヲ論スル學科ヲ名ツケテ動物總論ト稱ス蓋動
物史ニハ驚愕スヘキ奇怪ノ説ヲ比々記載セル
モノナリ世人偶然トシテ蜜蜂及蜘蛛ヲ見ハ則
之ヲ蠢爾タル蟲類ト思フヘシ然レトモ蜂巢或
ハ蛛網等ノ巧エヲ見ルニ及ヒテハ大ニ驚愕ニ
堪ヘサル可シ故ニ吾人能ク動物ヲ検査スルト
キハ此地球ト之ニ住スル所ノ物トヲ創造シタ

者ノ驚クヘキ精巧及智力ヲ感佩セザルヲ得
世人諸動物ノ或ハ陸ニ住ミ或ハ水ニ住ミ或ハ
高ク空中ニ飛翔スルモノアルコトヲ認知セリ
其四足ヲ具シテ陸地ニ住スル動物ヲ四足獸ト
名ツケ通常之ヲ毛屬ト稱ス其水ニ住スル動物
ヲ總稱シテ魚類ト名ツケ之ヲ考究スル學科ヲ
魚學ト云フ其羽翼ヲ具シテ空中ニ飛翔スル物
ノ動物ヲ禽類ト名ツケ之ヲ考究スル學科ヲ禽
學ト云フ又蟲類ヲ考究スル學科ヲ蟲學ト云フ

吾人各種ノ動物ヲ互ニ相比較スレハ其類似セ
ル所多キ者アリ或ハ其殊異ナル所多キ者アリ
故ニ今豚ト猫トヲ比較スレハ各一頭四足ヲ具
有スルヲ見ン然レトモ甲ノ頭ハ長クテ乙ノ
頭ハ圓ナリ且甲ノ足ハ蹄ヲ具ヘ乙ノ足ハ爪ヲ
有セリ又犬ト鳥トヲ比較スレハ豚ト猫トノ比
較ヨリハ更ニ異ナルアリトス此二物ハ各々脚
ヲ具ヘテ能ク運動ヲ爲セリ而シテ甲ハ四脚ヲ
具ヘ體ヲ被フニ毛ヲ以テスレトモ乙ハ只二脚
ヲ具ヘ着スルニ羽ヲ以テス

有名ナルリネゴース氏バコンクダー氏及其
他ノ博物家ハ皆斯ノ如ク諸動物ヲ互ニ相比較
シテ遂ニ動物分類ノ良法ヲ考定セリ蓋此法ハ
其類似セル處ノ諸動物ヲ收集スルニ在リ故ニ
其相類セル處ノ物ハ能ク一目シテ瞭然タラシ
メ且其差違アルコトヲ示スモノナリ此法ニ從
ヒテ動物ヲ分チ以テ數網ト爲シ其網ヲ分ケ
テ目ト爲シ目ヲ分ケテ屬ト爲シ屬ヲ分ケテ種
ト爲ス總テ動物分類法ノ旨趣ハ後ニ記載セル
處ノ分類法ヲ熟讀セハ容易ニ之ヲ理會シ得ヘ

動物分類法ハ恰モ諸動物ヲ一ノ大ナル欄中ニ
集入シ吾人ヲシテ一目瞭然タランムル爲ニ設
レ者ト見做ストキハ則此分類法ノ便利ニシテ
且裨益アルコトヲ容易ク了解ス可シ此分類法
ヲ學フニハ先其第一區即其綱中ニハ四足獸類
アリ其第二區即綱ニハ禽類アリ其第三區即綱
ニハ魚類アリト想像シ又精細ニ之ヲ覽閱ス
ハ則最初ニ認知セザル處ノ小區即目アリ蓋此
小區ハ熊獅狐犬等ノ如キ食肉ノ動物ヲ一ノ獸

圈内ニ収集シタルモノト想像シ尚能ク之ヲ覽
閱スル下キハ熊ノ部ニハ能ク熊ノ種類ヲ集メ
獅ノ部ニハ能ク獅ノ種類ヲ集メシコトヲ發明
セル者ト想像ス可シ

動物界ヲ大別シテ二部ト爲ス

第一大部 此大部中ニハ人類、四足獸類、禽類、爬

虫類、魚類等ノゴトキ脊骨ヲ有セシ諸動物ヲ
包有ス蓋此諸動物ハ皆骸骨アリテ其身體ヲ支
撐スルモノニシテ其脊骨及肋骨等ハ即骸骨ノ
部分タリ而シテ脊骨ハ能ク屈伸スル處ノ骨節

相連合シテ成ルモノトス其髓ト稱スル處ニハ
神經ノ一部分ヲ含蓄セリ

第二大部

此大部ハ墨魚、蝸牛、牡蠣、蟲類、小蟲類、

植蟲類等ノ如キ脊骨ヲ具有セサル諸動物ヲ包
有ス蓋此諸動物ハ總ヘテ骸骨、脊骨、肋骨等ナク
シテ其形體ハ一般ニ小サキモノナリ然レトモ
其種類ノ數ハ甚多ク動物界中ニ在リテ大部分
ヲ爲セリ且此動物中或ハ殻ヲ具有シテ其身ヲ
保護スルモノアリ或ハ柔軟ナル皮ヲ以テ其身
ヲ被フモノアリ而シテ此等ノ動物中ニハ五官

ノ機關全ク具リタルモノナク或ハ目官ヲ缺キ
或ハ口官ヲ缺キ或ハ鼻官ヲ缺クモノアリ又此
等ノ動物ハ一二種ヲ除クノ外皆赤色ノ血ヲ有
セザルモノニシテ或ハ運動スヘキ勢力ヲ具有
セス終生一處ニ定止スルモノ數多アリ總ヘテ
第二大部ニ屬スル動物ハ智力ヲ具有スルコト
么微ナリト雖モ自然ノ嗜意ヲ具有スルコトハ
實ニ驚ク可キナリ

動物分類法

第一大部

有脊動物即脊骨ヲ具有セル諸動物

有脊動物ヲ分ケテ四綱ト爲ス即左ノ如シ

○第一綱 哺乳動物 此綱ニ屬スルモノハ人

類、蝙蝠類、獼猴類、熊類、牛類、羊類、鹿類、其他ノ諸

四足獸類、及海狗類、海馬類、鯨鯨類等是ナリ

○第二綱 禽類 諸種ノ禽鳥ハ皆此綱ニ屬ス

○第三綱 爬虫類 此綱ニ屬スルモノハ蜥蜴

類、龜類、蛇類、蛙類等是ナリ

○第四綱 魚類 諸種ノ魚類ハ皆此綱ニ屬ス

第二大部

無脊動物即脊骨ヲ具有セザル動物

無脊動物ヲ分テ三綱ト爲ス即左ノ如シ

○第一綱 柔軟動物 此綱ニ屬スルモノハ大

概介殼中ニ柔軟ノ肉ヲ含蓄スル者ニシテ即

鰻鰻、螺、牡蠣、車渠、墨魚等是ナリ

○第二綱 多節動物 此綱ニ屬スルモノハ即

蟹類、龍蝦類、蜘蛛類、小蟲類、水蛭類、蚯蚓類等是

ナリ

○第三綱 多肢動物 此綱ニ屬スルモノハ耀

輝ナル光澤アル動物ニシテ其形狀或ハ枝桠

ニ類セル者アリ即海盤車、絲蟲、珊瑚蟲、莖菜等
スナハルヒス、イソギンチャク、ワカサギ、ヒメアザミ
等是ナリ

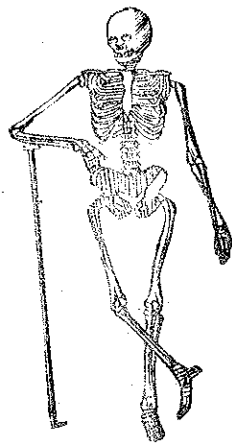
上條ノ分類法ハ鯨及象ノ如キ最大ノモノヨリ
最微ノ蟲類ニ至ル迄ノ諸動物ヲ包括セルモノ
ニレテ動物總論ヲ學ビ得ル間ニ吾人ヲシテ相
見レ處ノ各種動物ハ此分類法中ノ何網何目ニ
屬スルヤヲ認識セシムルニアリ故ニ今吾人ヲ
シテ此分類法ニ從ヒ其主眼ノ動物ヲ逐次考究
セシメムコトヲ要ス

第一大部

有脊動物

有脊動物ノ數種ハ皆赤色ノ血、及筋多キ心臟ト、
二齶ヲ具ヘタル口アルモノナリ此動物ハ皆其
面部ノ凹キ處ニ於テ視聽嗅味ヲ爲ス可キ機關

第九十九圖



人ノ骸骨

ヲ具ヘ且四肢ヲ有シ
テ男女性ヲ異ニシ血
液循環ノ造構全ク備
ハリ呼吸消化及分泌
ノ機關等モ亦皆身體
ノ造構中ニ存在セリ

第一綱 哺乳動物

兒童ニ乳ヲ哺
スル處ノ動物

哺乳動物ヲ分ラ十目ト爲ス即左ノ如シ

第一目

人類即兩手類是ナリ

第二目

四掌類 四手ヲ具有 即獼猴類是ナリ

第三目

殺生類 他獸ヲ捕攪シテ其 即熊類、獅

類等是ナリ

第四目

水陸兩生類 水中并ニ陸地ニ 即海狗

類、海馬類等是ナリ

第五目

袋獸類 腹肚ノ外ニ袋状ノ 即ポビ

ム是ナリ

第六目

齧齒類 即鼠、鼯鼠、栗鼠等是ナリ

第七目

無齒類 門齒無 即樹懶、食蟻獸等是ナリ

第八目

厚皮類 皮ノ厚 即象、猪、馬等是ナリ

第九目

翻蜀類 一回食セシ草ヲ翻出 即牛、

羊、鹿、山羊等是ナリ

第十目

鯨鯢類 鯨ノ性ニ類 即海猪類等是ナリ

哺乳動物細

第一目 兩手類

人類

第百圖

高加索種



歐羅巴及亞細亞ノ西方、亞非利加ノ北部ニ住マ
 リ此人種ハ極メテ聰明ニシテ外貌雅致アリマ
 シ高加索種ト名ツク蓋、黒海ト裏海ノ間ニ横絶

ルコト、是非ノ性ヲ有
 スルコト、ヲ以テ他ノ
 諸動物ニ卓越ス然レト
 モ萬國ノ人民皆同一種
 ニアラス世ニ正史アリ
 テヨリ以來白哲ノ人種

第百一圖

亞來由種



第百二圖

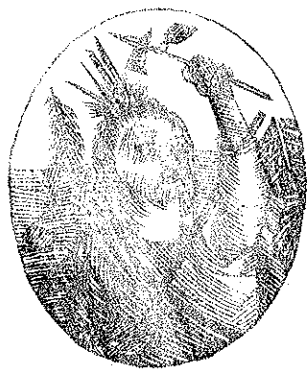
蒙古種

セル「ユトカヒト」ハ山中
 ヲ以テ此人種初生ノ地
 ト略定スルニ因リテナ
 リ又皮膚帶黃色ノ人種
 亞細亞ノ餘地ニ住セル
 者アリ之ヲ蒙古種ト名
 ツク蓋、又那北方ノ蒙古
 國ヲ以テ此人種初生ノ
 地ト爲セバナリ蒙古種
 ハ其聰明並ニ氣力高加

十
索種ニ次々第三ノ人種ハ亞細亞ノ大島中ニ住
ス之ヲ亞來由種ト名ツク第四ノ人種ヲ以日阿
伯亞種又黒人ト稱ス肌膚漆黒外貌野鄙ニシテ
才智モ亦淺シ亞非利加ノ住氏ハ大半此種ニ屬
ス又三百年前始メテ亞米利加洲ヲ發見シタル
時第五ノ人種ヲ見出セリ此種ハ肌膚銅色ニシ
テ才智少ク風俗兇暴ナリ之ヲ亞米利加種ト名
ヅク
白哲ノ人種ハ皆大ニ文學ヲ脩メ藝術ヲ競フ者
トス蓋世ヲ追テ聰明ニ進歩シタルハ唯此人種

ノミナリ
埃及亞刺比亞米所波太迷亞叙利亞及希臘等
人民ハ夙ク文學藝術政法ニ進歩セリ紀元前千
九百年頃ニ方リテ亞刺比亞ニ牧羊者亞伯拉罕
トテフモノアリ其子孫タル以色列人ト云フニ
及ビテ歴史興亡ノ事情ハ聖經中ニ見エタリ又
希臘人ハ特ニ聰明睿智ナルコト世上ニ冠絶セ
リ今其遺書ヲ讀ミ其餘業ヲ見テ以テ文學藝術
ノ盛且大ナルコト後世未曾テ之ニ勝レル者ア
ラサルヲ知ル可シ

第百三圖 亞米利加種



第百四圖

亞弗利加種 又黑人
ト云フ

羅馬人ハ勇氣ヲ以テ數
百年間萬國ニ冠タリ紀
元前千年頃ヨリ紀元後
六百年代ニ至ル迄地中
海北濱ノ諸國ニ在リテ
獨暴虐ノ域ヲ脱シタル
モノハ唯希臘及羅馬國
アルニミ而シテ其衰ッ
ル復暴虐ノ舊態ニ沈溺
セリ

泰西歴史ノ時代ハ紀元第一年ヨリ第六百年ニ
至ル迄ノ古代ト號レ此間ノ人ヲ古人ト稱ス又
此時ヨリ千四百年代ニ至ルヲ中古ト名フ此
際ニ方リテ教化漸甦復レ古人ノ文學ニ賴リテ
習練琢磨ノ意思ヲ助ケ物理ノ學業ヲ修メレガ
此時代ヨリレテ西教ノ德澤セ亦大ニ世人ヲ薰
陶セリ凡歐羅巴ノ諸國ニテハ以太利西班牙佛
蘭西日耳曼英吉利等特ニ此道ニ進歩シテ古人
ノ文教ト雖モ復應ニ之ニ遜ルハレ
近世此諸國ヨリシテ白哲ノ人種其教法文學藝

術及政法ノ意思ヲ以テ亞米利加洲ノ東濱ニ渡
リ年所ヲ經ズレテ遂ニ全洲ヲ所有スルニ至レ
リ
白哲人種ハ斯ク一方ニ開化ヲ進メタリト雖モ
此時ニ方リ文學開祖ノ國ハ却テ不開化ノ域ニ
却步レ彼ノ皮膚著色ノ人種ト殆ト同様ナル景
況ニ至レリ埃及亞刺比亞米所波太迷亞叙利亞
等ハ皆文學開祖ノ國ナレドモ當今ニ至リテハ
頗寥々乎トシテ見ルベキモノナレ唯大厦高堂
ノ殘址遺構ヲ見テ以テ昔時ノ盛大ナル證跡ヲ

判ハルノミ

人體總論

人身ノ外形ハ衆人ノ能ク熟知ヒル所ナリ其身
長ハ五尺ヨリ六尺ノ間ニシテ其身體ニ大強力
ヲ有セル者ニアラサレドモ直立レタル姿態ハ
萬物ノ靈タル可キ威德ヲ顯セリ總ハテ人類幼
少ノ時期ハ鳥獸ヨリモ長クモノニテ二十歳以
上ニ至ラザレハ全ク成長セズ此間幸ニレテ疾
病死亡等ノ患ヲ免ルレバ爾後三十年間ヲ以テ
壯年ノ期トス又其後二十年ヲ以テ初老ト爲シ

七十歳ヲ越ルトキハ則老年ニ至ルト云フ

人體ノ全骨 人體ハ骸骨ト名ヅクル骨骼上ニ

成立セリ左圖ハ其骨骼ヲ示スモノニシテ骨骼

中至要ノ部分ハ即脊骨^イ_イナリ脊骨ハ二十四

骨ヨリ成ル處ノ一柱ノ骨ニシテ其上端ニハ頭

蓋アリ又肋骨^ソ_ソハ脊骨ヨリ出テ彎曲レテ前

面ニ至リ過半ハ胸骨^ウ_ウト名ヅクル骨ト相會セ

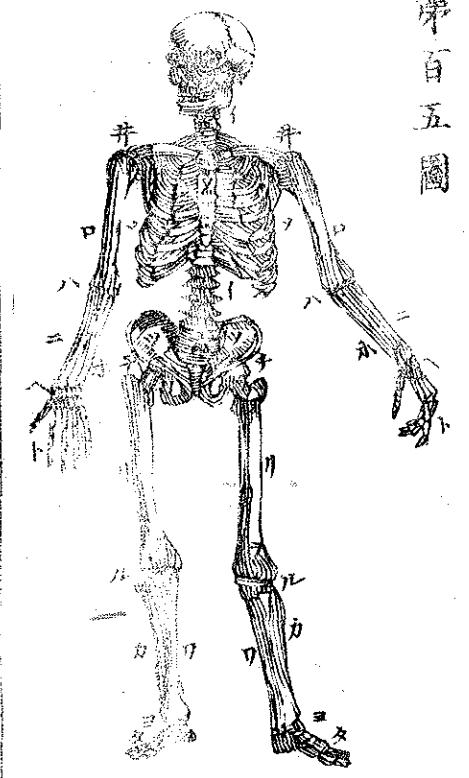
リ鎖骨^井_井ハ頸^ヨ_ヨヲ肩ニ至リ上臂骨^口_口正肘骨^ニ_ニ

及轉肘骨^ホ_ホヨリ成ル處ノ腕ノ首ト成ル正肘骨

ト轉肘骨トハ肘^ハ_ハト名ヅクル關節ニ依リテ上

臂骨ト相連合セリ腕ノ端末ニ手掌骨アリ此骨
ハ手骨掌骨^ヘ_ヘ及指骨^ト_トニ依リテ成ルモノナ

第百五圖



脊骨ハ薦骨

ムノ上ニ坐

薦骨ハ軀

幹ノ基礎タ

ルニ尻骨盤

ツツノ間ニ

固着ス尻骨盤ヨリ腿骨^チ_チ相起リテ脚ノ上端

ヲ成シ膝ニハ膝蓋骨^{ニーベン}ヲト名ツクル特別ノ小骨
アリ膝ハ通常脚骨ト稱スル脛骨^{チビヤ}ワノ首トナリ
脛骨ハ平行ナル小骨ノ腓骨^{フィブラ}カニ依リテ支撐セ
ラル腓骨ハ膝關節ト連合セザレトモ脚目^{ヒヨイン}ヨ
成スニコト脛骨ト相連合ス
脚ハ脚目關節ニ依リテ足^{フット}タト相連リ足ハ若干
ノ小骨ヨリ成リテ全體ノ基礎トナルモノナリ
人體ノ骨ハ總計二百四十八枚アリテ構造各其
用ニ應シテ其質堅硬白色ニシテ石灰及少量ノ
動物質ヨリ修成セリ

骨骼ノ上表ニハ筋肉皮毛等ノ齊整備具スルイ
ツテ人目ヲシテ常ニ此骨骼ヲ看ルコト能ハサ
ラシム蓋骨骼ハ人目ヲ悦バシムルモノニ非サ
レハナリ

人體ノ筋

人體中ノ柔軟ナル部分ハ大半肉絲^{ミヤクシ}
ト名ツクルモノヨリ成ル且手足ヲ意ノ如ク運
動セシムルノ力ハ皆此肉絲中ニ在リ全身ノ肉
絲ヲ分テ四百餘束ト爲シ皆之ヲ筋ト稱ス其形
狀ノ大小性質ノ強弱等ハ各其用ニ從ヒテ變ズ
筋ハ柔軟ニシテ赤色ノ肉絲ヲ束子タルモノナ

其形圓^{シリ}塼ノ如ク其方向互ニ相並行ス手足ニ
ハ運動ノ爲ニ緊要ナル筋アリ其兩端ハ關節ヲ
跨エテ骨ト連合ス故ニ精神手足ヲ動サント欲
スルトキハ命ヲ交通神經ニ傳フレハ則此節膨
脹収縮レ唯意ノ欲スル所ニ從フ者ナリ
斯ノ如ク身體ノ外部ニ在ル諸筋ハ皆精神ノ管
理ヲ受ク然レドモ内部ニハ血液循環食物消化
ノ爲ニ必要ナル諸筋アリテ其功用ハ醒覺ノ際
モ睡眠ノ間モ絶エテ怠ラズレテ心意ニ從ハザ
ルモノナレバ之ヲ稱シテ不隨心筋ト云フ

人體ノ神經系

人體ノ全面ニハ神經ト名^ナソ
ル細線アリテ遍布セリ此神經ハ腦及脊髓^{スポンジ}ヲ
起リテ五官ノ報知ヲ精神ニ奏通レ精神ノ命令
ヲ諸筋ニ傳達スルノ功用アリ腦及脊髓諸神經
トヲ總稱レテ神經系ト云フ其故ハ此三者顯然
タル同一ノ功用ヲ爲スヲ以テナリ神經ハ並行
シタル白色細微ノ纖維ニシテ小孔アル莖ノ中
ニ包圍セリ之ヲ分テ二部ニ爲レ其一ハ知覺ノ
用ヲ司リ其二ハ運動ノ用ヲ達スル者トス
腦ハ頭蓋ノ腔中ニ在ル白色柔軟ノ塊肉ナリ其

組織ハ纖維狀ノモノニシテ血管ノ十分ニ備具
セラルリ且精神ノ機ニシテ其功用ノ緊要ナル
コトハ論ヲマダス故ニ腦ニ保護スルノ方甚嚴
ナリ蓋腦ヲ蓋ヘル骨ハ穹窿狀ニシテ最モ堅牢
ナル數骨ノ合成セルナリ其縫合スル所ハ犬牙
綜錯シテ互ニ密接セリ斯ク其縫合スル所以ハ
其一部ニ若傷害ヲ受クハ其害唯一骨ニ止テ他
骨ノ部分ニ及ボス患無カラシメンガ爲ナリ
腦ノ内部ヲ分チテ最要ナル大塊及後部ノ小片
ト爲ス其大塊ヲ大腦ト名ツク其小片ヲ小腦ト

小腦ト

稱ス小腦ハ脊骨ノ孔内ニ充實セル處ノ長キ髓
ト相連レリ此長キ髓ヲ脊髓ト名ツク脊髓ハ針
又ハ刺ノ如キ至細ノ傷害ヲ受クトモ亦死ヲ致
ス可シ

五官及肺^{呼吸器}胃^{消化器}ト交通スル神經ハ其源腦ヨリ發シ
手足ヲ運動セシムル神經ハ脊髓ヨリ出ツ又交
感神經ト名ヅクル別種ノ神經アリ此神經ハ腦
及脊髓ト直ニ相通ゼズニテ胸部^{胸腔}ニ在リテ不隨
心筋ニ運動力ヲ與フルモノト略定セリ
體外萬象ノ感覺ハ皆五官^{視、聽、嗅、味、觸}ヲ

トコヲ經テ以テ意識機ニ相通ス

視官

物ノ形狀及彩色ヲ認知スルハ眼ノ功用ナリ其外貌ハ人ノ能ク認知スルモノトス眼ハ透明ナル球ヨリ成リテ眸子ヲ除クノ外悉ク前面ヲ蔽ヘリ球ノ後面ニハ眸子ト相對シタル網ノ如キ膜アリ之ヲ網膜ト名ツク此膜ハ鏡面ノ如ク萬像ヲ映セシムルノ力アリ故ニ物像眸子ヲ透テ内部ニ至レバ則直ニ此膜ニ映ス且物ノ大サハ水晶體ノ爲ニ減縮セラル、モノトス蓋シ網膜ハ張開シタル神經ニシテ眼球ノ後ニ至

テ收束シ遂ニ神經ノ常形ト爲リテ腦ニ通ス

聽官

耳ノ音聲ヲ聽キ得ルハ鼓膜ト名ヅクル膜上ニ張劑ニシテ神經ノ功用アリ鼓膜ハ鼓皮ノ如ク耳内ノ空竅ヲ横斷スルモノニシテ音聲ハ則空氣ノ顫動ニテ以テ鼓膜ヲ振蕩セシムルニ依リ生スル者トス例ヘハ大砲ヲ發射スルトキハ窓戶之カ爲メニ震動スルガ如シ今夫空氣鼓膜ヲ震動スルトキハ鼓膜ノ神經精細ニ其感得スル處ノ報知ヲ腦ニ奏ス又鼓膜ト結合スル數多ノ小細胞アリ此空竅ハ音聲ヲ反響シテ神

經ヨリ腦ニ輸送スル感應ヲ高ハルモノト略定
セリ

味官

味ヲ知ルコトハ特ニ舌面ニ遍布スル神
經ニアリ蓋古膜ノ上面ニ夥多ノ小孔アルハ食
物ヲシテ直ニ神經ニ觸レシメンカ爲ナリ

鼻官

香臭ヲ嗅クコトハ鼻孔内ノ皮下ニ遍布
スル神經ニアリ蓋鼻烟ヲ屢嗅クトキハ此神經
ヲ害スル者ナリ

覺官

外物ノ觸覺ヲ知ルコトハ身體ノ全面ニ
蔓延遍布スル處ノ神經ニアリ而シテ能ク諸物

ヲ明瞭ニ判決スル指尖ノ神經ハ最モ無數
テ且細微ナルモノナリ是其感觸知覺ノ功用ヲ
司ル主機ナルガ故ナリ

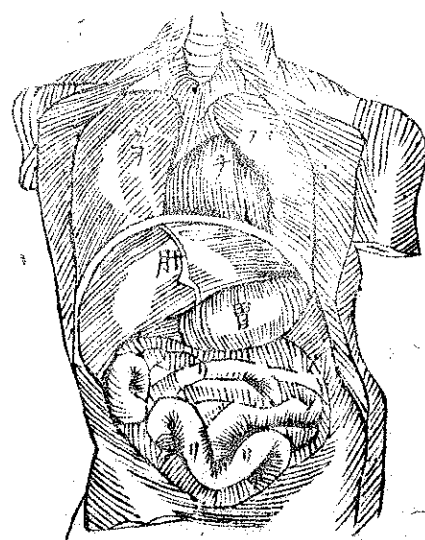
人體ノ血液

人ノ全體ハ骨肉共ニ血ト名ヅク
ル赤色ノ液アリテ流通セリ血ハ脈管ヲ通シテ
循環ス此管ノ末端甚細微ナルコトハ得テ知ル
ヘカラス血ヲ全體ニ循環セシムルノ機並ニ生
命保續ノ爲ニ欠ク可ラサル食物及空氣ヲ血液
ニ資給スルノ機ハ皆身體ノ上部ナル肋骨内ノ
空竅中ニ在リ

此空竅ヲ稱シテ胸ト云フ其下部ニハ呼吸ニ從テ上下スル平膜アリテ體內ヲ横斷レ以テ上下

ノ分界ヲナス之ヲ横隔膜ト名ヅク又薄膜アリテ胸部ヲ縱斷シ左右兩邊ニ分ツ此膜ノ後部ハ別

テ二層トナリ胃管及胃ト通スル處ノ溝管ヲ爲ス左邊ノ胸部ニハ心ハート及左肺レフト・ラングアリ他方ニ



第百六圖

右肺ライ・ラングアリ又リ・リ・リノ符號ハ則腸ナリ

心ハ牢固ナル筋狀ノ囊ニレテ其側面ノ厚サハ

一インチチノ四分一ヨリ半インチニ至ル環狀ノ

長キ肉狀纖維ヨリ成レリ心ノ功用ハ即筒ノ水

ヲ壓シテ射出セシムルガ如ク血ヲ壓シテ體內

ノ諸脈管ヘ輸送スルコト猶管ヲ以テ水流ヲ都

邑ニ灌注スルトキ水櫃之ガ隙ヲナスガトレ

心ノ内部ヲ別チテ左右二區ト爲ス其分界極ノ

テ強固ナリ又此二區ヲ分チテ二房ト爲ス即心

耳心室是ナリ

第百七圖 心臟



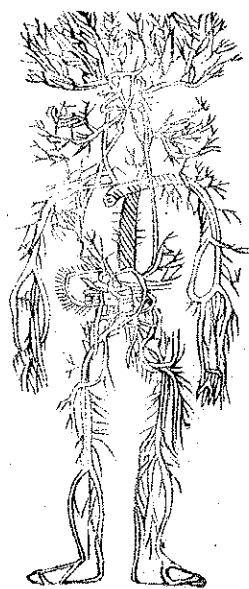
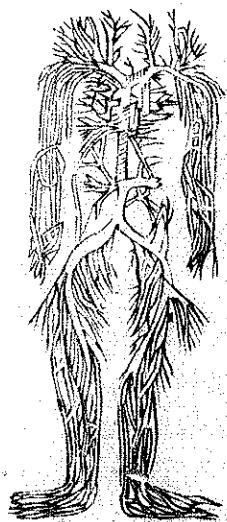
蓋左心室收縮レテ血ヲ動脈管ニ射出レ遂ニ全體ノ各部ニ運輸ス斯ク分派シタル血再靜脈管ニ集入レテ遂ニ右心耳ニ歸リ隨ヒテ又右心

⑦ ⑦ ハ左肺
 ⑦ ⑦ ハ右肺
 ⑦ ⑦ ハ大動脈幹
 ⑦ ⑦ ハ血
 ⑦ ⑦ ハ輸ル處
 ⑦ ⑦ ハ大靜脈
 ⑦ ⑦ ハ右心室
 ⑦ ⑦ ハ左心室
 ⑦ ⑦ ハ心ノ右邊ニ心耳心室アリ左邊モ亦心耳心室アリ

室ニ入ル

血液此ノ如ク身體ノ各部ヲ一周スルコトヲ稱シテ第一運行ト名ヅク而レテ復右心室ヲ出テ肺動脈ヲ歷テ肺臓内ヲ循環シ肺靜脈ニ集リ遂ニ左心耳ニ入リ隨ヒテ又左心室ニ入リ再全體ノ各部ニ派出ス蓋肺臓内ヲ循環スルノ間之ヲ第二運行ト名ヅク總ベテ心ヨリ血ヲ射出スル動作ハ手足ニ於テ覺知スルコトヲ得ハレ之ヲ名ヅケテ脈息ト稱ス大人ノ全血量ヲ計ルニ二十四ポンド乃至三十ポンドナリト云フ

第百八圖 人體ノ靜脈



第百九圖 人體ノ動脈

上文ニ位置ヲ
記載セシ肺臟
ハ呼吸ノ機器
ニシテ彈力アリ
輕體ナリ其
質ハ海綿狀ニ
シテ氣管支氣
管及血管ノ集
合錯雜セルモ
ノトス凡ベテ

ロヨリ吸入スル所ノ空氣ハ氣管ト名グクル大
管ニ入りテ遂ニ肺ニ至ル此氣管ハ胸ノ上部ニ
於テ二條ニ分レ左右兩肺ニ入りテ又分レテ無
數ノ小枝トナリ肺ノ全面ニ蔓延ス

氣管支ノ末端ハ肉眼及眼鏡ノ見得ルコト能ハ
ザル細管ニシテ彼血管ノ細微ナル末端ト相混
交レ以テ肺ノ血液循環ヲ扶ク可ハ職務ヲ成セ
リ夫血液ノ入體ヲ營養補給シテ活潑ナラシム
ル本原ノ第一ハ酸素ナリ蓋血液第一運行ヲ以
テ全體各部ニ營養活潑ノ力ヲ給シテ第二運行ヲ

以テ肺内ニ至リ氣管支ト相接シテ大氣中ノ酸素ヲ引キ直ニ心臟ニ還リ其吸收セシ所ノ酸素ヲ再輸出ス

消化系

横隔膜ノ下ニ在ル營養ノ機器ハ主ト

レテ胃ト腸トニ係レリ凡食物ハ胃管ヲ通り下リテ胃ト腸トニ至ルトキ胃液ト名ヅクル液汁ノ消化ヲ受ク此胃液ハ疾病アルニ非ザレバ則最堅質ナル食物ヲモ尚能ク消化スル所ノカアル者ナリ

消化作用ハ胃液ノ食物ヲ溶解ス可キ生ニ依

リテ糜塊ト名ヅクル稍白色ノ半流動物ト爲シトヲ云フ既ニ糜塊ト爲リシモノハ幽門ト名シクル胃ノ下口ヨリ出シ此幽門ハ胃液ノ全ク消化スル能ハサルモノヲ拒ム處ヲ能力アリ斯克テ糜塊ハ十二指腸ト稱スル腸ノ上部ニ於テ膽汁ト云ハル液ヲ肝ヨリ受ケ又脾液ト云ベル液ヲ脾ヨリ受ケ更ニ消化シテ以テ乳糜トナル既ニ乳糜ト爲リタル者ハ乳糜管ト唱フル無數細微ノ管ニ依リテ吸入セラレ上リテ胸管ト稱スル長キ管ヲ經過シ終ニ鎖骨下ノ靜脈管ニ注

入レテ身體ヲ養フガ爲ニ全ク肺中ノ血液ト相混合ス

胃液ノ消化ヲ受ケザル食物ノ餘塊ハ皆腸ヲ過テ驅出セラル腸ノ形狀ハ胃ノ如キ大囊ニアラスレテ直徑一インチ乃至二インチノ溝管ナリ解體家ハ之ヲ分チテ六部ト爲ス曰ク十二指腸曰ク空腸曰ク迴腸曰ク盲腸曰ク結腸曰ク直腸而シテ直腸ハ諸腸ノ最末端ナリ

分泌及排泄系

血ハ既ニ記載セル作用ヲ以テ食物ノ精良ナル部分ヲ資リ人體ヲ榮養補給ス

ルノ外更ニ分泌排泄ノ緊要ナル職務ヲ成セリ其分泌機ノ重要ナル者ハ肝第百六圖中肝唾腺、淚腺等ノリ

肝ハ黑色柔軟ノ大ナル機器ニシテ腹腔上邊ノ右側ニ在リ肝ハ唯動脈ノ遍布セルノミナフス足部ヨリ迴血ヲ心ニ輸送スル大靜脈ウエーイモ亦之ニ遍布セリ而シテ其膽汁ヲ分泌スルハ全ク動脈ノ所爲ナル乎將靜脈ノ所爲ナル乎未審カナラス脾ハ其形狀犬ノ舌ニ類似シ胃ト連接セル細小ノモノナリ脾ノ用ハ食物ヲ消化シテ乳糜ト

爲スベキ液汁ヲ分泌スルニ在リ

唾腺ハ口内ノ周邊ニ在リテ食物ノ咀嚼ヲ助ケル爲ニ津唾ヲ分泌ス又淚腺ハ眼窩ノ内角ニ在リテ絶エズ眼球ヲ滋潤ス若此滋潤ナキトキハ眼球轉動シ難クシテ太陽空氣等ノ爲ニ屢傷害ヲ受クルコトアラン

此他猶許多ノ分泌機アリテ身體ノ諸部ヲ滋潤セリ例ハハ氣管支ニ氣管腺アリ腸ニ粘液腺アリ又皮下ニ脂腺アリテ人體ヲ保護ス可キ脂液ヲ分泌スルノ功用ヲ爲ス斯ノ如ク分泌機中

液汁アルノ見ルト雖モ其液汁ハ如何ナル分析作用一因リテ生ズルカハ未之ノ審ニスルコト能ハス

排泄ノ主機ハ腎腸及皮膚ナリ腸ハ只食物ノ渣滓ヲ輸出スル溝管ナレトモ腎ト皮膚トハ血液ノ渣滓ヲ分泌シ又之ヲ排泄スルノ功用ヲ見ル總バテ皮ノ職掌ハ汗ヲ蒸發スルニ在ルナリ

養生

身體ノ健康ハ世上ノ幸福中至重ナルモノ、一ニ居ル健康トハ身體中ノ諸機ヲシテ造化構造ノ道ニ從ヒ各其功用ヲ行ハシムルヲ云

ノ疾病ハ則之ニ反シテ諸機中傷害ヨリ起リ或
ハ其功用ヲ錯亂スルヨリ生ズ凡^レ老年ニ及バズ
シテ死スルヒノハ生來ノ虚弱ニアラザレバ則
必^ス諸機中ニ不慮ノ傷害ヲ受クルカ又ハ功用ノ
錯亂スルヨリ生ズルモノナリ
生來ノ虚弱ヲ療治スルコトハ無論人カノ能ク
及^フ所ニアラズ又傳染諸病ハ人カヲ以テ必^ズ預
防ス可キコトヲ保證スルコト能ハズ然レドモ
學識ト注意トヲ以テ養生ヲ善クシ永年無病ナ
ルコトハ之ヲ爲シ得ベシ

第一 人體ノ傷害ヲ防禦セント欲セハ先^ニ造化
靈妙ノ法則ヲ知ルコト最緊要ナリ火ノ火傷セ
シムルコト熱湯ノ湯傷セシムルコト高處ヨリ
墜下スレバ重傷ヲ負ヒ刀刃ノ筋肉ヲ傷ルトキ
ハ劇痛ヲ覺ユル等は皆三尺ノ童子モ能ク知ル
所ナレバ世人是等ノ事ヲ知ルヲ以テ自^ラ足レリ
トセズ尚須^ニラ^ク兩間萬物ニ就キ自然ノ法則ヲ
周ク學知スヘシ蓋^シ此法則ハ統^ヘテ世人ヲ惠庇
スル爲ニ造化ノ設立シタル者ナルヲ却テ吾人
ハ屢^ニ之ニ戾^リ身體ニ損害ヲ蒙ルヲアリ故^ニ人

トシテ重カノ法則ヲ識リ又化學ノ法則ヲ知
ヲ特ニ緊要ト爲ス

第二 人體功用ノ錯亂ニ因リテ起ル所ノ疾病
ヲ防カント欲セハ先、人體功用ノ法則ヲ知ラン
コトヲ要ス特ニ全體ノ諸機ヲレテ能ク其功用
ヲ達セシムルニ緊要ナル者四アリ空氣、食物、運
動、清潔是ナリ凡健康ヲ保全スルニハ必、此四者
ヲレテ各其宜キニ適セシメンコトヲ要ス

空氣ノ人體諸機ノ功用ヲ扶助スルニ其酸素ヲ
含蓄スルコト全量五分ノ一ニ居ルトキヨリ最

宜ハナシ若、空氣ノ流通セサル室内ニ在ルトキ
ハ速ニ其酸素ヲ減消ス古語ニ曰ク密室ニ居テ
呼吸スレハ一呼一吸皆健康ニ害アリト故ニ居
室食堂等ハ其承塵ヲ高ク且大ニスルヲ良トス
否ラザレハ空氣常ニ流通シ難シ又寺院學校製
作場其他衆人ノ集會スル處ハ空氣ノ流通ヲヨ
クスヘシ總テ室外ノ空氣ハ人體健康ニ於テ最
モ良トス是ニ依リテ考レハ居室ノ人ハ日々著
ルキ空氣ノ量ヲ費ヤスベシ

健康ノ爲ニ必要ナル者ハ良善ノ食物ナリ諸食

物中、麵食、脯肉、醃藏肉、膏膩品及果實ノ中、特ニ榛子、扁桃仁、栗子ノ如キ核果ノ仁ヨリ成ル所ノ者ハ消化甚惡シク動モスレハ胃ヲ害シ腹痛ヲ起スモノナレバ之ヲ食スルコト勿レ若之ヲ食ストモ必少量ニ止ル可シ

世人常用スル所ノ飲料中ニテ葡萄酒、火酒、杜松子酒、大麥酒ノ如ク多量ノアルコールヲ含メルモノハ皆消化ニ害アリ飲料及肉類ハ其精選シタル者ト雖モ尚過量ニ用ヰルベカラス夫ノ嗜欲ニ欺カレテ過量ヲ飲食ヲ貪ルカ若キハ胃ノ

用之ガ爲ニ錯亂窘迫レ重キ疾病ヲ發スルコトアリ

吾人常ニ注意シテ人體ヲ養フ爲ニ必要ナル諸品ヲ血液ニ供給レ且血液ヲシテ其功用ヲ遂ケシムル方法ヲ行ハザルヲ得ズ

此方法ヲ行フニハ適宜ノ運動ヲ以テ須要ノモノトス思フニ供給ヲ要スルコトハ消耗ヲ爲サシメンガ爲ナリ令飲食シテ身體内ニ得ル所ノモノアランニハ必分泌排泄ノ爲ニ體外ニ出ルモノ亦其分量ヲ同クセン故ニ斷エス新陳代謝

ノ運營アリ然ルニ懶惰ニレテ身體ヲ運動セザ
ルトキハ此運營モ亦自衰弱ス故ニ精神ヲ活潑
ニシ筋骨ヲ運動スルコトハ健康ヲ保全スルニ
欠ク可カラザルモノナリ世人各己好ム所ニ從
ヒ活潑ニ身體ヲ運動スレハ血液之ガ爲ニ適宜
ニ消滅レテ更ニ新ナル養ヲ得ント欲スルニ至
ル上條ノ説ニ由リテ動物身體功用ノ概略ヲ知
リ得ヘレ蓋天ノ人ヲ生ズル其力ヲ勞セシメン
ガ爲ナリ古語ニ曰ク汝額上ニ汗レテ以テ汝カ
食ノ所ノ麵包ヲ作ルミレト故ニ人ハ勞カスル

爲ニ形體ノ諸機ヲ賦與セラレタル者ナレバ其
諸機ヲレテ造化設立ノ道ニ從ヒ之ヲ適宜ニ運
動セシムレバ是即造化ノ意思ニ慍フモノニレ
テ健康モ亦自保全スベレ
凡ソ世人怠惰豊富其他ノ惡レキ習慣ヨリレテ身
體ヲ運動セザルトキハ必ス虚弱ニ起キ又ハ疾病
ヲ生スベレ運動ヲ怠リ疾病ヲ生ズルモノハ特
ニ婦人ニ多レトス而レテ終日坐スル處ノ職業
ヲ爲ス人モ亦之ト同レ原因ニ由リテ疾病ヲ招
キ易レ

運動ノ不足ナル上、純粹ノ空氣ニ之キ時ハ其健康ニ害アルコト甚多シ又吾人身體ノ強弱如何ヲ顧ミズ非常ニ心志ヲ勞レ身體ヲ運動スルコト勿レ斯ク非常ニ心身ヲ勞動スルトキハ巨害ヲ醸レテ往々死ヲ招クコトアリ

身體ノ健康ニ必要ナルモノ、第四ハ即清潔ナリ夫ノ全身浴又ハ半身浴其他屢衣服ヲ更換スル等ハ皮膚ヲレテ排泄ノ功用ヲ達セシムルニ須要ノコトナレドモ世人往々之ヲ知ラザルヨリレテ遂ニ小兒ノ頸及耳ヲ毎日洗ハザル惡キ

習慣ヲ爲ニ至リ或ハ爪間ニ黥垢ヲ填ル者アリ是等ハ甚健康ニ害アリトス且健康ハ家室ノ清潔ナルト空氣ノ流通宜シキトヲ以テ最緊要ト身體ヲ清潔ニ爲スニ就中齒牙ニ注意スルコト極メテ緊要ナリ齒ハ必毎日擦掃シ清水ヲ以テ之ヲ洗フマシ然ラザレバ食物ノ滓渣中ニ生ズル極微蟲コクキハシ珊瑚蟲珊瑚ト同シ類齒上ニ繁殖シテ齒牙ヲ衰弱ナラシメ劇シキ齒痛ヲ起シ終ニ齒ノ重要ナル諸機ヲモ全ク喪失スルニ至ルマシ故ニ

人、幼年ノ時ヨリ宜シク身體ヲ清潔ニスルコ
トヲ習慣セレハミ

人ノ性

總論

腦ノ精神ノ府ニシテ五官ノ相會スル所
ナルコトハ既ニ記載セリ然レトモ腦ヲ以テ精
神ナリト想フベカラズ是唯造化ノ權力能ク有
形ノ機器ヲ造リ之ニ精神ノ功用ヲ委任セルノ
ミ顧フニ精神ハ靈妙細微ノ精氣ニシテ身死ス
ルノ後モ消滅スルモノニ非ス而シテ其身體生
活スルノ間ハ那狀ニシテ有形及無形ノ物ト結

合スルカハ未之ヲ知ルコト能ハズ

知覺ヲ熟考スルニ恰ヒ精神ハ猶寫真筐内ノ鏡
面ノ如シ凡體外ノ見聞觸知スベキモノハ皆五
官ヲ經テ此寫真筐内ノ鏡面ニ映シ以テ千差萬
別ノ情態ヲ顯ハス然レトモ一面此筐内ノ鏡面
ニ映ズルモノハ之ヲ拭フトモ磨滅セス又此鏡
ハ形像ナキモノヲ映出シテ壁上曾テ比類ナキ
美觀ヲ現スノ力アリ且人ノ事物ノ感得之方
爲ニ其情意ヲ動スコトハ此筐内ノ鏡アル故
ナリ

斯ノ如ク精神ハ單純ニシテ分離ス可ラサルモ
ノ、如シト雖モ之ヲ分テバ則各種ノ才能ト爲
ル此才能ノ別レテ人間ニ在ルモノ強弱銳鈍ノ
殊異ナルヨリ同ジク命ヲ天ニ稟ケ同シク此世
ニ生ル、モ自ラ知愚ノ差違アルナリ
是等ノ才能ヲ大別シテ二トナス一ヲ良知ト云
ヒ一ノ良能ト云フ甲ハ主トシテ知識ニ關シ
ハ全ク行爲ニ渉ル
良知ハ幼少ノ時ヨリ精神中ニ發生スル者ニシ
・持ニ知識ヲ開カント欲スル諸才能ヲ含蓄ス

故ニ通常之ヲ知識能ト云フ乃言語ヲ習熟スル
ノ能ト物ノ方圓大小輕重黑白ヲ觀察スルノ能
ト物ノ上下多少順序動靜遲速音聲ヲ考察スル
ノ能トナリ音聲ノ論ニ至リテハ音樂ノ由リテ
起ル所タリ

世人幼少ノ際ニハ充分ニ發生セザル所ノ良知
ヲ回想能ト名ヅク其種ニアリ一ヲ比較能ト名
ヅク蓋其職務ハ事々物々ノ考思ヲ收集シテ其
異同ヲ指シ示スニアリ詩人講師等ハ主トシテ
此能ヲ習熟セリ人ノ述作セン書冊及談話ハ

常ニ妙案ノ心機ヲ動スモノ互ニ相關涉シテ全
ク相離レザルノ趣ヲ示シ以テ人ノ快樂ヲ極ム
各種ノ心機一樣ニ發生シ皆其中ヲ得ルキハ
是正詩ノ由リテ起ル處ナリ一ハ高尚ナルヲ云
シ一ハ野鄙ナルヲ云フトキハ滑稽ノ文トナル
ナリ

想回能ノ第二ハ原由能ナリ此能ハ原由ト結果
トヲ察スル處ノ能ニシテ良知中ノ至貴至重大
ルモノトス人ノ禽獸ト異ナル所以ハ蓋之ヲ以
テナリ人ハ天ヨリ此能ヲ賦與セラレテ原由中

ニ結果ヲ履ミ禍ヲ轉シテ福ト爲スヲ得可
シ例ハ人其身ノ將ニ禍ニ陷ラセトスルヲ推
察スレハ則之ヲ避ケテ其結果ヲ遁ルカ故ニ
此能ヲ大ニセハ物理ノ師トナル可ク又能ク危
急ノ際ニ臨ミテ容易ニ決斷スル人トナル可シ
良能トハ人情ヲ彰示スル精神ノ部分ヲ謂フモ
ノナリ此感動中ニ善心アリ私心アリ善心ハ人
ヲ善道ニ導クモノニシテ私心ハ自己ノ爲ニ歡
樂ヲ極メ或ハ自己ノ爲ニ利益ヲ爲サント欲ス
ルモノナリ

善心中第一ノモノハ尊敬ナリ尊敬トハ己ヨリ
貴キ人又ハ物ヲ尊崇シ特ニ天地萬物ヲ創造シ
テ世人ヲ恩愛スル處ノ神明ヲ尊敬スルヲ云フ
其次ハ恩惠ナリ恩惠トハ我カカヲ盡シテ世人
ノ幸福ヲ導キ又我ヲ妨グルモノアリトモ之ヲ
許スヲ云フ

又其次ハ公道ナリ公道トハ世人ヲレテ人ノ人
タル道ヲ行ハシメ其之ヲ行ハザル者ハ之ヲ悔
イシムルヲ云フ又公道ハ人ヲレテ道理ニ背カ
シメズ若し道理ニ背クモノアレバ後日自悔イテ

其過ヲ改ハルニ至ラシム

良能ノ第二ハ上條ノ如ク顯灼ナル者少シ然レ
トモ人情ヲ悅バシメ快樂ヲ勸メ世上ノ職務ニ
應ゼシムルモノニシテ此目中ニ含蓄セルモノ
六個アリ左ノ如シ

其一ハ剛毅ナリ剛毅トハ百事ヲ斷スルニ泰然
トシテ之ヲ處分シ持ニ危難ニ臨ミテ裕然自若
ナルコトヲ云フ其二ハ願望ナリ願望トハ堪ヘ
難キヲ堪ヘ忍ビ難キヲ忍ビテ以テ後來ノ幸福
ヲ樂ムコトヲ云フ其三ハ好奇ナリ好奇トハ所

謂好事ナル者ニシテ奇物、奇人、奇事等ヲ愛玩娛
樂スルコトヲ云フ其四ハ好美ナリ好美トハ天
造並ニ人エノ美麗ナル諸物ヲ嗜好スルコトヲ
云フ其五ハ好笑ナリ好笑トハ笑ノ可キ奇物ヲ
好ミ滑稽ヲ樂ミ游戲ヲ嗜ムコトヲ云フ其六ハ
慕尚ナリ慕尚トハ意思有リテモ又ハ知ラズ識
ラズシテモ我が見聞認知セル他人ノ容貌性質
行狀等ヲ學ビ慕フコトヲ云フ
良能ノ第三ハ前者ヨリモ一等下レル者ニシテ
目中ニ含蓄セル者三個アリ其一ハ自重ナリ自

重トハ自己ヲ尊重誇大ニスルコトヲ云フ其二
ハ好譽ナリ好譽トハ好ミテ他人ヨリ自己ヲ尊
敬稱美セラレンコトヲ欲スルヲ云フ其三ハ謹
慎ナリ謹慎トハ現在若クハ未然ノ禍害ヲ防グ
コトヲ云フ

良能中ノ末尾ニシテ最下等ノ中ニ含蓄スル者
數多アリ即生ヲ惜ムノ性、食ヲ嗜ムノ性、色ヲ好
ムノ性、子ヲ愛スルノ性、朋友ヲ親ムノ性、居所ヲ
選フノ性、憤怒レテ事物ヲ敗毀スルノ性、藏匿
ノ性、敵對ノ性、獲得ヲ欲スルノ性、勞カスルノ性、精

神ヲ一事ニ專ニスルノ性はナリ

良知ノ發動シテ以テ其功用ヲ達スルハ自ラニ定メテ法則アリ此法則中ニ特別ノ名稱アリ事物ヲ了知シ又之ヲ熟考スル單純ノ功用アリ之ヲ注意ト云フ注意ハ常ニ精神中ニ發動スル所ノ意思ヲ停住シテ專之ヲ目前ノ事物ニ注射スルニ必要ノ者ナリ又注意ニ次ク所ノモノアリ之ヲ理會ト云フ蓋人ハ此理會ヲ以テ天地萬物ノ道理ヲ了會詳悉スルモノナリ又從前見聞セシ所ノ事物ヲ記存シテ之ヲ忘レザルノ力アリシ

ヲ記憶ト云フ

人目前形無キ所ノ物ニ感動シテ現在精神中ニ存スルガ如キ念ヲ爲スアリ之ヲ名ヅケテ意思ト云フ又未見ザル處ノ形像ヲ集メテ巧ニ之ヲ結構スルアリ之ヲ名ヅケテ想像ト云フ又一事ヲ思フヨリ知ラズ識ラズ之ト關涉スル處ノ他事ヲ思フアリ之ヲ名ヅケテ合思ト云フ又睡眠中ニ思念ヲ發動シテ前後混亂スルコトアリ之ヲ名ヅケテ夢ト云フ

良知ト良能トヲ論ゼズ各其能ヲ盡クシテ正シ

ク之ヲ使用スルトキハ其心ニ快樂ヲ覺ユベシ
此兩能ハ孰モ生活ノ大道ト行爲ノ正路ト
涉セザルハナシ知識能及想回能其正路ニ向進
スレバ人ヲシテ聰明ノラシム蓋善心動キテ奢
侈ヲ行ハザレバ必ス天ノ道ニ從ヒ教ヲ信シ德ヲ
修メテ聰明ノ域ニ進ムヘシ

良能ノ第二ハ吾人ヲシテ良善ノ快樂ヲ受得セ
シム然レドモ此快樂度ニ過ルトキハ復罪責ア
ルヲ免レズ良能ノ第三目中ニハ自重ト好譽ト
ノ二者ニ於テ頗不良アルヲ見レ下ニ高德ノ

不足スルモノ一ハ二者ヲ以テ甚須要トス而シ
テ此二者甚シク度ニ過グルトキハ遂ニ傲慢ト
浮華トヲ生ズル者ナリ傲慢ナレハ則自尤揚シ
テ滿心シ浮華ナレハ則他人ヨリモ自己ノ稱賛
セラレンコトヲ希望ス

良能ノ第四目中ニハ人ノ保護永續ノ爲ニ緊要
ナル癖ヲ含蓄セリ而シテ德行善良ノ人ニアラ
ザルヨリハ條理ヲ考ヘ善行ヲ勵ミテ此癖ヲ抑
制スルコト能ハズ

良能ハ單獨ニ發動スルコトアリ或ハ集合シテ

發動スルコトアリ例ハハ尊敬ノ心ノミ單一ニ
 發動スルトキハ人ヲシテ孝心ナラシメ若ハ之
 ニ自重ノ心ヲ加フレバ人ヲシテ己ガ奉ズル教
 ヲ誇張シ人ノ教ヲ輕蔑スルニ至ラシムハ好譽
 甚シキ心ト恩惠ノ心ト集合スルトキハ人ヲシ
 テ己ノ善事ヲ虛飾スルニ至ラシム又忿怒ノ甚
 レキ心ト公道ノ意ト集合スルトキハ人ヲシテ
 刑罰ヲ行フコト殘酷ヲ極ムルニ至ラシム統ヘ
 テ善心ハ純粹ナルヲ緊要トス然ラザレバ其功
 徳鮮少ナリトス

良能ノ下等ナルモノハ必善心ニ服從シ明智ノ
 管理ヲ受クルヲ要ス否ラザレバ則災害ヲ招ク
 コト少ナカラズ又人ノ心志ヲ勞シ以テ愉快
 覺ユルコトアリ之ヲ娛樂ト云フ此娛樂ノ突然
 發動シタルモノヲ歡喜ト云フ又心志ノ喜望ス
 ル愉快ト愛情トヲ阻碍セシメ或ハ心ニ慊ラザ
 ル事物ノ爲ニ激動セラル、之ヲ憂愁ト云
 フ此憂愁ノ甚シク激シタルモノ哀痛ト云フ
 又此激シタルモノヨリ憤怒又復讐ノ念ヲ興
 スナリ凡人ノ能ハ事物來テ之ヲ感動スルニ非

ザレハ則穩静ニシテ知覺ナキモノ、如シ故ニ
人ニ多ク過失アルハ此能ノ屢事物ニ感動セラ
レ穩静ナラザルヨリ起ル者ナリ

各種ノ能ハ其勢力強弱ノ殊ナルヨリシテ其趣
ク所陷ル所アルヲ知ルコトハ人ノ要務ナリ又
人ノ幸福ハ教ヲ信ズルヨリ生ジ特ニ左ノ四條
ニ關スルコトヲ了知スベシ

第一條 良知ヲ適宜ニ使用シテ世上ノ度務ヲ
爲シ且物理學ヲ學ビテ自然ノ性ニ適セザル勞
動ヲ爲スコト無ク以テ快樂ヲ得ベキ基礎ヲ立

ツベシ

第二條 能力發動シテ其度ニ過ギ禍害ヲ生バ
可キ能力ヲ抑制ス可シ

第三條 意思ヲ謹慎シ特ニ自重ト好譽トノ二
者ヲ制ス可シ此二者ハ巧言ヲ以テ能ク人ヲ誑
偽シ又人ヲ害ス可キ不正ノ怒ヲ發スルアリ豈
慎マサル可シヤ

第四條 平常善心ニ服従スベシ然ルトキハ大
意ニ適應シ人モ亦之ヲ愛敬スル者ナリ

哺乳動物綱

第二目 四掌類 四キヲ具有セルモノ

此目ハ大凡猿猴類、大猴類、真猴類等ノ如キ、獼猴ノ族ヲ包有ス、クウール氏ハ狐猴ヲ以テ此目ニ加入セリ

四掌類ハ其狀貌大ニ人ニ類似シテ、四手ノ如キハ相別レタル四指ト相對スル、拇指トヲ具ヘタル掌アリ、果實、草根、蟲類等ヲ食物ト爲ス

四掌類ハ皆靈族ニシテ、多クハ林中ニ棲ミ、其性敏捷ニシテ、狡猾活潑ナルモノナリ、亞細亞、亞非利加、及亞米利加ノ煖地ニ生殖シ、歐羅巴中ニハ

石巴拉大ヲ除クノ外ニ、此類ヲ産スル地ナレ

第一族 猿猴類

猿猴類ハ皆果實ヲ食ヒテ、林中ニ棲ミ、樹ヲ攀ル

第一百十圖 サイフマンク



常ヲ警視スル爲ニ、非スシテ、恐クハ其元來ノ習

コト甚巧ナリ、其食ヲ索メ、樹ヲ攀ルトキハ必ス上下左右ヲ四顧スルモノナリ、蓋猿猴類ヲ捕ハテ之ヲ養フニ、其身外同遊ヲ四顧スル者ハ全ク非

慣ニ係ル者ナラン統ハテ猿猴類ハ夜間樹木ヲ
握ミテ睡卧セズ各樹木ノ枝又ニ粗ナル巢ヲ構
ヘテ之ニ睡眠シ晝間喧噪ノ際モ亦茲ニ卧ス其
食スル時限ハ温暖地方ニ住スル動物類ノ如ク
多クハ朝暮ニ在ルナリ

他洲ヨリ歐羅巴ニ齎シタル數種ノ猿猴類ヲ鑑
ミテ以テ其一般ノ性質ヲ確定スルコト能ハバ
但歐羅巴ニ齎來ル猿猴類ハ大概稚子ナルヲ以
テ馴致スルニ隨ヒ漸其性質ヲ變シ氣候又ハ他
ノ原因ニ依テ遲鈍且虛弱トナルナリ又猿猴類

ヲ除クノ外第二目中ニ屬スル諸獼猴類ノ性質
ヲ推レテ以テ猿猴類ノ性質ヲ考定セバ其狡猾
ニシテ四手強壯齒ハ犬牙ノ如ク畏ル可クシテ
能ク害ヲ爲ス者タルヲ知ルニ足ラン今茲ニ猿
猴類固有ノ性質ヲ盡ク確證センニハ其微スバ
キモノ甚少シ然レドモ猿類ハ皆馴致レテ以テ
有益ノ用ニ供スルコト能ハス且人ニ類似スル
所頗多シト雖モ動物銳敏性ニ至リテハ大ニ他
ノ諸動物ニ劣レルモノト確定セリ

亞非利加^{シンバ}猩猩^ス一名此猩猩ハ身長大凡三尺其毛黑色

第百十一圖



亞非利加

ニシテ疎ニ長毛ヲ生シ口及耳
ハ甚大ナリ元來此猩ハ亞非利
加ノ産ニシテ特ニ「ギ」^イ「ヤ」^ア及
「ゴン」^ゴノ地ニ多シ統ヘテ他ノ
諸動物ニ比スレバ身體機關ノ
構造甚人ニ類似スト云ノ又此
猩ハ靈慧ナルモノニシテ之ヲ教養スルコト其
易ニ常ニ樹木ノ枝ヲ以テ小舎ノ如キモノヲ作
リ其中ニ群居シ木挺或ハ石塊ヲ以テ能ク襲敵
ヲ防禦ス又之ヲ馴致スルトキハ人ノ如ク直立

シテ行歩シ且跪坐スル者ナリ
猩々 此動物ノ記載ハ尚曖昧ニシテ曩亞非利
加猩ト混淆スルコトアリ此物交趾^ア地^チ名^ミノ麻刺^マ
加及亞細亞ノ諸島ニ住ス其容貌ハ他ノ諸動物
ニ比スレバ最モ人ニ近シトス然レドモ其體格
ノ人ニ似タルコトハ亞非利加猩ニ如カズ或ハ
纔ニ直立シテ行歩シ得レドモ通常^ト者ノ如ク
兩手ヲ地ニ附シ體ヲ引テ前進ス而シテ其地上
ヲ歩スルコトハ甚稀ニシテ多クハ樹上ニ棲息
スルモノナリ

千八百三十一年ニ猩々ノ仔ヲ「ボル子」（重細並島名）ヨリ「ポストン」（米國ノ地名）ニ齎シ二年間之ヲ展覽ニ供セシガ遂ニ死シタリ此猩々ノ容貌ハ彼世人ニ接スルヲ好マザル處ノ黑人ニ酷類似セリ猩々ハ猿猴ノ族ニレテ四手ヲ具有シ其臂長ク五指モ亦長クレテ相別レ盡ルハヲ具ヘ其體ノ毛色ハ稍赤褐ナリ常ニ果實ヲ食ヒ猛烈ナルコト實ニ驚愕ス可シ其身長ハ六尺乃至七尺ニ及ビ往々之アリ然レドモ之ヲ馴致スルトキハ其性變レテ靜穩トナリ鬱々トシテ憂ヲ含ムノ形

狀ヲナハニ至ル又椅子ニ倚リ或ハ杯ヲ把テ酒ヲ飲ミ或ハ自己ノ周邊ニアル事故ヲ擬似セシムルコトヲ教フルハ甚容易ナリ昔時猿猴類ノ大ナル者ト略定セシ「ボンゴ」ハ方今之ヲ猩々ノ大ナルモノト確定セリ

猿猴ノ一種ナル「サイアマ」（亞細亞島）ニ産ス其毛ハ稀疎ニシテ黒色ノ絨毛^{ウルク}アリ日出日没ニハ毎ニ群集シテ相叫ビ其聲醜惡ニシテ聞クニ堪ヘザレドモ餘時ハ甚靜穩ナリト云フ又此「サイアマ」（亞細亞島）ハ頗ル其子ヲ眷愛シ且其身

第百十二圖

動作猿猴



體ヲ注意シテ之ヲ洗ヒ或ハ摩シ或ハ乾ス等ノコトヲ爲ス者ナリ然レドモ之ヲ畜養スルニハ其性鈍ニシテ人ト相馴レ親ムコトナシ

既ニ記載シタル猿猴類ノ外尚數種アリ即動作猿猴又敏捷猿猴黑色猿猴等是ナリ

第二族 大猴類又拂々類

大猴類ハ尾短ク鼻長クシテ其性怒リ易シ之ヲ

以テ眞猴類ト區別ス且大猴類ハ皆四手ヲ以テ步行シ體軀四手共ニ肥大ニシテ毛皮ハ濃褐色ナリ

第百十三圖 灰色大猴



大猴ノ種類ハ皆體格容貌甚美ナラズ恐クハ諸哺乳動物中ノ最醜ナル者ナラン假令其頭部ノ形狀ハ殺生肉食ノ動物類ニ似タリト雖モ他ノ部ハ多ク人ニ類似スル所アリ

巴々利猴 此種ハ四掌類中ニ在テ古來ヨリ歐
 羅巴人ノ最モ熟知セルモノナリ蓋通俗之ヲ巴
 々利猴ト稱スルハ其產地タル北亞非利加ヲ亦
 スモノニシテ多ク亞大蠟山亞非利加ノ山名ノ林中及
 日巴拉大スベイノ岩山ニ蕃息ス但此山ノ最
 モ高キ所ハ海面ヨリ抽ツルコト一千四百三十
 九尺ニシテ山側ノ各所ニハ歐羅巴ノ南部及亞
 非利加ノ北部ニ生ズル草本類繁茂セリ
 巴々利猴ハ日巴拉大ノ南邊ニ於テ亞非利加北
 部ノ如クニ蕃息シ其大サモ亦相等シ蓋此種ヲ

産スル地方ハ亞非利加ノ外ニ在リテ日巴拉大
 トシ亞非利加ノ中部ニ於テハ大沙漠ノ南方並
 ニ東方ニ限レリ

此種ハ巴々利猴ノ如ク古來ヨリ
 歐羅巴人ノ熟知セルモノニ非
 ス通俗之ヲ真猴類ニ屬スト雖
 モ巴々利猴ノ如ク大猴類ニ屬
 スルヲ以テ適當トナスワシデ
 ルハ印度地方及錫蘭印度ノ島名ニ産スルモ

ニ産ス其他東洋諸島ニモ亦恐ラクハ産スルモ



ノアラン

狗面大猴

此種ノ成長シタルモノハ其身長五
尺有餘ニ達シ性甚猛烈ニシテ害ヲナスモノナ
リ其毛ハ一般ニ淡灰色ナレドモ之ヲ熟視スレ
バ一毛毎ニ帶黃淡黑色ノ小斑點アリテ全體ノ
毛色鮮明ナラス又面部ノ周邊ニ生スル毛ハ甚
長クシテ恰モ外套ノ如ク頸ヨリ肩ニ垂下セリ
此種ハ亞非利加ノ東部及亞非利加ノ對岸ナル
亞刺比亞ノ地ニ産シ特ニ樹木繁茂セル「イーメ
ン」亞刺比亞ノ丘陵ニ多ク栖息シテ丘陵内ノ
カ

非蘭ニ重害ヲ爲スコト多シ且亞刺比亞ノ南部
ヨリ波斯灣ニ至ルマテノ間ハ此種ノ棲息ニ最
モ適應セル土地多シト云フ又其牡ノ全ク成長
セルハ能ク其仇敵ヲ防禦スルコト甚畏ルハ
或ハ人ヲ襲撃スルコトアリ然レドモ其實ハ襲
撃ノ念ヨリ生スルカ又ハ防禦ノ爲ナルカ未之
ヲ詳ニスルコト能ハス

豕面大猴ハ南亞米利加ニ産スルモノニシテ喜
望峰ノ屬地中ニ甚蕃息スル所アリ然レトモ平
常ハ山中ニ住シ果實熟スルノ時ニ非レバ平原

第一百十五圖

豕面大猴



容易ニ之ヲ退散セシムルコト能ハズ

岩山ノ頂上ニ在ル豕面大猴ノ巢窩（但此大猴ハ
ヨリモ岩山ノ巢窩ヲ以テ甚堅固ナリ）攻撃スレ
バ則其之ヲ防クノ術恰モ砲術未開ナル世人ノ
城ヲ守ルガ如ク手ヲ勞シテ石ヲ抛擲スルニ頗

ニ出ルコト稀ナリ其時期ニ
至レバ則群ヲ聯ネ隊ヲ爲シ
來リテ田園ノ果實ヲ竊掠ス
其來ルハ猛勇大胆ニレテ銃
砲ヲ發スルニ非ザルヨリハ

能ク的中ス或バ又投グルコト能ハサル處ノ大
石ヲ轉落スルコトアリ此大猴ハ甚活潑ナル害
ヲ爲フコト多ク他ノ大猴類ヨリモ大ニ嬉戲（タハシム）ヲ
ナス一云フ嬉戲ノ狀ハ酷真猴類ニ似タルモノ
ナリ

豕面大猴ハ郊野ニ於テ農夫ノ餐食スルヲ見レ
バ竊ニ農夫ノ背後ニ至リ其食物ヲ掠奪シ之ヲ
其巢窩ニ齎サズシテ其處ニ止マリ以テ農夫ヲ
戲弄シ退テ少シク隔タル場所ニ坐シ掠奪シタ
ル食物ヲ人ニ見セシメンガ爲ニ之ヲ捧グ安然

トシテ之ヲ食フト云フ此大猴ハ諸動物中ニテ
最ニ能ク事故ヲ擬似スルモノトス然レドモ此
獸ニ就テノ說話中ニハ往々信ズルニ足ラザル
コト多シ

豕面大猴ハ他ノ大猴類ニ比スレバ其性頑メラ
ズシテ嬉戲ヲナスコトモ亦多シ且之ヲ畜養ス
ルトキハ甚教ヘ易シ然レトモ年老ユルトキハ
之ヲ弄ス可ラス若シ之ヲ弄スレバ必害ヲナシモ
ノナリ特ニ其牡ハ害ヲ爲スコト甚シ又此大猴
ハ一回其身ニ害ヲ蒙レバ之ヲ怨ムコト甚深シ

ヲ數日ヲ經ルトモ取ヘテ遺忘セム其咬齧ヲ爲
スコト急突ニシテ且猛烈ナリ故ニ頗る危險ナル
モノトス

「マンドリール」此種ハ「グザール」氏ノ說ニ據レ
バ上條ニ記載ヤシ種類ト一種相異リタルモノ
ト定ム其之ヲ別種ト定ムル所以ノモノハ大ニ
其口ノ長キコト、尾ノ短キコト、他ノ大猴類
ヨリモ性ノ兇暴ナルト等ナリ而シテ此數條
ニテハ未ダ「マンドリール」類一般ノ性質ヲ明瞭ニ
シ且其他猴類ト全ク相異ナル所ヲ徵スルニ足

種ト爲ス者ナリ
ラ、只其體格ト毛色ノ甚奇異ナルトヲ以テ別

成長シタルマンドリイルノ壯ハ其毛灰褐色ニ
シテ體ノ上部ハ黃色ヲ帶ヒ腮ノ上ニ黃鬚アル
ノ尋常トス臉ハ藍色ニシテ皺アリ鼻ハ赤色ニ
シテ其尖ニ至レハ深紅光澤アリ其他毛ヲ被ハ
リル部分ハ多ク赤色ナリ臀ノ脾^{イサ}眈ハ其色青蓮
ニシテ光澤アリ而シテ此臀ノ大ナルコトハ最
モ著明ナリ蓋此種ハ這般ノ種々非常ナル光澤
色ヲ間錯シテ容顏恰モ扮色設彩ヲ極メテ修飾

シタルカバキト其形狀ノ奇異ニシテ且猛烈ナ
ルトニ依リ哺乳動物中ニ於テ最モ異相畸貌ノ
モノトス

マンドリイルハ諸大猴中ノ最大最奇ニシテ最
恐怖スヘキモノナリ通常成長セルモノハ其身
長殆人ト同クシテ甚強壯ナリ持ニ頸頸及體ノ
上部ヲ最強壯トス

ドリル 此種ハマンドリイルニ比スレハ身體
頗小ニシテ甚猛烈ナラズ毛色ハ一般ニ黃灰色
ニシテ面色黒ク其尾細短ナリ又此種ハ年齢ニ

從ヒテ毛色ニ著ルキ變化アリ其壯壯年ニ至レ
ハ上部ノ毛色變レテ更ニ黒色ヲ増シ腮ハ光澤
アル赤色ニ化ス

尚其他大猴ノ種類數多アリ

第三族 眞猴類又禺類

總ヘテ四掌類中ニ屬スルモノハ猿猴類大猴類
並ニ眞猴ノ數族ナリ但孤猴ヲ四掌類ト爲スハ
未妥當ナラス

眞猴類猿猴類大猴類ハ大概林中ニ棲ミ枝ヲ互
リ樹ヲ踰ユルニ極メテ捷快ナリ常ニ液汁若ク

ハ粉質多キ果實ヲ採リテ之ヲ食ヒ葉ヲ食スル
コトナレ此果實ハ熱帶地方ニ夥シク産スルモ
ノナリ又好ミテ蟲類ヲ食フ故ニ四掌類ハ其毛
皮中ニ生バル處ノ蟲類ヲ互ニ搜索レ之ヲ捕ヘ
テ食フ時其陋態見ルニ堪ヘス

四掌類ハ皆枝ヲ傳ハリ樹ヲ踰ユルコト極メテ
輕捷容易ナルコト是特別ノ天賦ニレテ即其體
格醜畸ナル所以ナリ又眼目ノ突出セルト四掌
及容貌ノ概略人ニ類似セルトニ依リ渠ヲ見ル
人ハ頗渠ヲ厭フノ思念ヲ増加ス可シ蓋人ハ醜

キ物ヲ見ルヲ好マザルノ性アレバナリ通常世俗ニ四掌類ハ醜陋ニシテ一般ニ人ノ厭惡スベキモノ、一種ト考定セル故ニ皆渠ノ容貌ヲ厭フナリ

四掌類ハ狀貌此ノ如ク醜陋ニシテ人ノ厭惡スルモノナレドモ其性極メテ敏捷活潑ナルヲ以テ人ノ厭惡スヘキ思フ減少ス故ニ獸苑中ニ在リテハ能ク人心ヲ慰メ持ニ兒童ヲ喜ハシム是ヲ以テ真猴類ノ圈アル處ニハ人常ニ群集ヲ爲セリ真猴類ハ其性甚嚴肅ナレドモ大猴類ハ容

貌極メテ厭フ可ク其習慣ニハ決カラサルコト多クレテ性極メテ兇暴ナリ故ニ世人四掌類ヲ見テ差其意ニ適フベキモノハ唯真猴類ノミナリ其人意ニ適スル所以ハ渠ノ容貌ヨリ生スルニ非ズレテ其行爲ト運動ノ活潑ナルト其性ノ狡猾ナルト其母ノ兒子ヲ慈愛スル深情アルト其同類中互ニ相親昵スル情アルトニ依リテ生スルナリ真猴類ヲ我合衆國ノ如キ氣候寒冷ノ地方ニ携ヘ來リ展覽ニ供スルニ吾輩ノ温和ト稱スル氣候ハ熱帶地方ノ林中ニ産セシ真猴ノ

兒子ニ在リテハ其產地ノ冬日ヨリモ頗ル嚴寒
トス故ニ眞猴ニ頭相會スレハ互ニ身體ヲ懷抱
ニテ相煖メ又其兒子アルモノハ之ヲ壯牝ノ體
間ニ擁レテ以テ相煖ムルナリ斯ク互ニ注意ス
ルコトハ動物中ニ在リテ最善ナルモノ、一ト
ス

東洋諸島亞非利加熱帶地方及亞米利加地方ノ
林中ハ眞猴ノ棲息ニ適スル地ナリ此等ノ地方
ニ捷息スル眞猴ヲ以テ其自然ノ性ニ適レタル
純粹ノ標準トナス其故ハ之ヲ歐羅巴ノ如キ寒

冷ノ地方ニ携ヘ行クトキハ氣候及他ノ原因ニ
依リテ其性質モ亦隨ヒテ變易スレバナリ
熱帶地方ノ林中ニハ眞猴類ノ數屬アリテ其數
極メテ多ク皆能ク眞猴固有ノ性質ヲ存セリ蓋
眞猴類ハ平野ニ棲息スル者甚稀ナリ其故ハ身
體機關ノ構造平野ニ棲ミ食ヲ索ムルニ適セザ
レバナリ凡地球上ニテ眞猴類ノ棲息セル地方
數多アレドモ其主眼ナル者ハ三處ナリ此三處
ノ眞猴類互ニ相異リテ其種類中更ニ同一ト
モノナレ

右ニ述、タル三處トハ亞細亞ノ南東及其近傍諸島亞非利加ノ西南亞米利加熱帶地方ノ林中等ヲ云ノナリ此三所ノ眞猴類ハ其容貌互ニ相異ナレリ故ニ同大陸中ニ産スルモノハ其習慣及機關至要ノ部分等殆皆同一ニレテ屬ノ差違ヲ生ズルニ至ラズ然レドモ東大陸ニ産スルモノト西大陸ニ産スルモノトヲ比較スルニキハ屬ノ差違アルナリ

吾輩今茲ニ地理ニ從ヒ眞猴類ヲ二箇ニ大別ス第一東大陸眞猴類第二西大陸眞猴類是ナリ東

大陸ノ眞猴類ハ西大陸ノ眞猴類ニモ非ズ又猿類ニモ非ズ大猴類ニモ非ズレテ其中間ニモノタリ吾輩ハ通常博物大家ノ說ニ從ヒ眞猴類屬ノ名稱ヲ用サルナリ

東大陸眞猴類

東大陸ノ眞猴類ハ種類極メテ夥多ナリ其運動スルハ甚輕捷ニレテ尾ノ長キモノ多シ然レドモ其尾ハ皆卷纏スベキモノニ非ズ
赤色猴 此種類ハ古來ヨリ人ニ知ラルタル者
一ニレテ其頭ハ圓ク眉毛ノ生バル處隆起セ

目ノ周圍ハ滑ニシテ鼻ハ平扁耳ハ頗大ナリ
口内ニ齒ノ外部ニ方リテ左右ノ頰嚙アリ尾ハ
其體軀ヨリモ長キモノタリ赤色猴ハ亞非利加
ノ産ニシテ「セ子ガル」亞非利加ノ地名林中ニ棲ミ甚
敏捷ナル小キ動物ナリ其身ノ長サ大約一尺六
七寸ニシテ其尾ノ長サハ殆體軀ト相等レシ體
ノ上部ハ甚光澤アリテ帶赤色ノ魔斑アリ
變性猴 此種類ハ狀貌ノ醜ナルコト他ノ諸動
物ニ過キ毛皮中ニ存スル斑點ノ色甚奇ニシテ
玩賞ス可キモノナリ且其產地ノ未分明ナラズ

種々ノ説ノリテ眞ニ確定シ難シトス恐クハ亞
非利加ノ産ニシテ亞大蠟山中ニ棲息スルモノ
ト略定ヒリ然レドモ今日ニ至ルマテ歐羅巴人
ハ此山中ニ於テ此種類ヲ見レト云フヲ聞カズ
「アイア」即バ「ラチンモンキ」「リンミ」ス氏
ノ此種類ヲ「アイア」ナト名ケレ所以ハ額上ニ新
月形ノ白點アリテ昔時人々此種ヲ獵人守護
ノ女神「アイア」ト唱スル神像ノ額上ニ「アイア」
月形ト相類似セルヲ以テナリ且此種類ノ形狀
ハ前ノ二類ノモノト能ク相似テ其產地モ亦同

ク亞非利加ナレドモ此種多クハ赤道近傍ノ林
 中ニ棲ムモノナリ體軀ノ長サハ大凡一尺五寸
 テシテ尾ハ大凡二尺アリ全體ノ毛色ハ黑白相
 混合セルモノニシテ頭頸ノ邊ニ至レバ漸々灰
 色ニ變シ下體ノ部モ亦然リ
 「インテルラス、モンキ」此種類印度ニ在リテ
 ハ甚尋常ノモノニシテ能ク人ノ知ル處ナレド
 モ歐羅巴ニ於テハ之ヲ知ル者甚少シ「モンキ」
 氏曰此種類ノ幼稚ナル者ヲ捕ヘテ之ヲ養フト
 キハ容易ニ馴レ親ミテ種々ノ嬉戲ヲ爲スコト

第百十六圖

「インテルラス、モンキ」



甚敏捷ナレドモ平常ハ温和
 ニシテ且謹慎ナリ然レドモ
 漸々成長スルニ從ヒ其嬉戲
 ヲ爲スコト大ニ減シ人ニ依
 賴スルノ心變シテ却テ人ヲ
 猜疑シ其敏捷ナルコトモ亦息ミ虚浮ニシテ知
 覺ナキモノ、如シ而シテ曩ノ伶俐ナリシコト
 ニ負キテ全ク自己ノ暴力ヲ恃ミ終ニ兇暴ヲ恣
 ニシテ其害ヲ爲スコト幼時ヨリ山野ニ在リシ
 處ノ真猴類ト異ナラザルニ至ル其體軀ノ上部

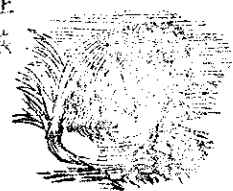
ハ一様ナル灰色ニシテ其尾ハ稍黒色ヲ帶ヒタル灰褐色ナリ且尾ノ大サ一様ニシテ其端ニ至リテハ尖銳ナラズ唯長毛ヲ叢生スルノミニシテ流蘇狀ヲ爲サズ

又體軀ノ下部ハ白色中ニ稍黒色ト黃色トヲ帶ビテ其下臂、手掌及足ハ淡黒色ナリ又四手ノ指ハ甚長クシテ拇ハ頗短ク面ハ黒色ニシテ稍青蓮色ノ帶ヒ長キ黒色ノ剛毛アリテ眉毛上ヲ蓋ヘリ此長毛ハ少シク上部ニ向ヒテ前面ニ突出ス

交趾猴

此種類ハ其容貌諸真猴中ニ在リテ最

第百十七圖



交趾猴

モ奇異ニシテ恰モ百種ノ品類ニテ繡裁ヒシ衣服ヲ着セル人ニ彷彿タリ且此種類ハ最初交趾ヨリ歐羅巴洲ニ齎シ、以來洲人始メテ之ヲ知リシ故ニ交趾猴ト名ヅ

ケレ者ナルベシ

西大陸真猴類

上條ニ記セシ東大陸ニ屬スルモノ、外尚種々ノ數族アレドモ今茲ニ亞米利加真猴類ノ數種

ノミヲ記サン此種ハ皆東大陸ノ者ニ比スレバ
齧齒四個彼ヨリ多レ之ヲ分チテ數個ト爲ス
ト左ノ如シ

第一轉猴類 吼猴及蜘蛛猴等

第二跳猴類 即地猴類

第三斑猴類等是ナリ

轉猴類

此真猴類ハ皆卷纏スベキ長尾アリテ其端ヲ樹
枝ニ卷キ倒懸シテ空ニ翻ル等ノコトヲ作スセ
リ蓋此尾ハ極メテ強壯ニシテ其之ヲ使用

第百十八圖

轉猴



スルニ猶臂ノ指ヲ使
ガ如ク樹木ヲ攀グ枝
ヨリ枝ヲ經過スルニ大
ナル扶助ヲ爲ス者ナリ
又轉猴ノ種類ハ其數
甚メ夥多ニシテ南亞

米利加ノ各所ニ群集セリ

吼猴 カウモンキー 此動物ハ大聲ヲ發スルガ故ニ高聲者

別稱アル者ニシテ自カラ一定シタル屬ヲ成セ
リ四手ノ長ハ適宜ニシテ皆五指ヲ具有ス而シ

テ前二キノ拇ハ其長サ大約食指ノ半ナリ且其
機關構造中ノ最モ著ルキ者ハ舌骨ニシテ此構
造ニ大聲ヲ發スベキ機關ヲ修成セリ

此奇異ナル大聲ヲ發スル機關

但此機ハ他諸動物ノ音聲ヲ發ス

相異レリハ何的ノ用ヲ爲スカ未之ヲ確定スル

コト能ハズト雖モ哀悼ナル音聲ヲ發スルノ機

タルコト明ナリ且此機ノ具有セル動物ハ亞米

利加産ノ真猴類中ニテハ最大ノ者ナレドモ未

真ノ大動物ト爲スニ足ラズ然レドモ其聲タル

獅子ノ吼聲ヨリ大ニシテ二里四方ニ達シ其音

調ノ大且烈ナルニ因リテ知ラサル人ハ此猴ノ

棲息スル林中ヲ最モ畏ルベキ野獸ノ群居セル

地方ナリト想フベシ又吼猴ハ其讐敵ヲ防クニ

彼恐怖ニベキ肉食獸トハ其法異リテ人ヲ襲フ

ニモ枯枝ヲ折テ棍ト爲シ或ハ不潔物ヲ抛擲ス

ル等ノコトナリ此者ハ南亞米利加ノ諸處ニ棲

息シテ其數極メテ多シ「フムボル」氏南亞米利

加ノ某林中ニ棲息セル者ヲ計ルニ三里四方ノ

中ニ其數二千ヨリ少カラザリシト云フ

赤色吼猴 此種類ハ「フムボル」氏ノ「モノコロ

シ」ホーリングモンキー

ラドト稱スル者ニテ通常之ヲ稱シテ赤色猴ト
名ヅク其異殊ナル性質ノ一ハ面部ニ毛ナキコ
トナリ

熊狀吼猴 此動物ハ其產地ノ名ヲ取リアラガ
トト呼フ者ニシテ赤色吼猴ト混スルコト往
々之アリ然レドモ全ク別種類ノ者ニシテ赤色
吼猴ニ比スレバ多ク山地ニ棲息スル者ナリ且
「ムボル」氏ハ氣候溫和ノ地方或ハ寒冷地方
ノ高處ニ於テ此種類ノ數多棲息セルヲ見シコ
ト往々之アリト云フ此種類モ又大ナル叫聲ヲ

發ス特ニ雨天ノ前ニ多シ故ニ之ヲ稱シテ粗略
ナル一種ノ晴雨儀ト云フモ亦可ナリ而シテ此
種類ノ行狀ハ頗る聳肅ナルモノナリ
金尾吼猴 此種類ハ赤色吼猴ト相混ズ然レド
モ別種類ノ者ニシテ第一ニ其毛色異ナリ尾ノ
下半及肩上ヨリ腰部マデハ甚光澤アル黃金色
ナリ而シテ尾ノ上半ハ其光澤アル葡萄酒色ナ
リ又頭ト四手ハ其色甚濃クシテ四手ニ至レバ
紫色ニ變ズ故ニ頭ト手トノ同色ナルヲ以テ容
易ニ赤色吼猴ト區別シ得可シ又其他ノ部分ノ

色モ自異ナル者ナリ

褐色吼猴 此種類ハ伯西爾ニ産スルモノニシテ之ヲ知ル者甚少レ

赤手吼猴 此種類ハ全體黑色ニシテ其四手及尾ノ下半ノミ茶褐色ナリ

黒黄尾吼猴 此種類ハ第一ニ其毛色ヲ以テ區別シ得ベキ者ニシテ全體ノ色ハ帶黒褐色ナリ尾ハ黄色ノ線アリテ面部ハ帶黄褐色且毛ヲ被ルコト甚微ナリ

吼猴ノ種類ハ此他尚數多アリト雖モ今之ヲ枚

舉スハコトヲ要ヤス故ニ吾輩ノ他ノ「サ」ハシヨ

ウニ屬スル處ノ種類ノミヲ左ニ記載スヘシ

「ムホルト、モンギ」 此種類ハ彼ノ聰明勇敢

ナル「ムホルト」氏曾テ阿利挪加河ノ近傍ニ於

テ發見シタル者ニシテ頗大ナル動物ノ一ヨリ

其身長、頭ヨリ尾ニ至ルマデ大凡ニ尺三寸ア

リテ其尾ハ身長ヨリモ稍ト

「カリソン、モンギ」 此種類ハ前ニ記載スル者

ニ比スレハ頗小ニシテ伯西爾ニ産ス且體軀ノ

上部及四手ノ表面ハ灰色ヲ帶ビタル黄色ナリ

又、ヘルモンキ― 此種類ハ此屬中及其他ノ屬ニ比ス、ハ歐羅巴人ノ能ク認知セルモノナリ其容貌ハ真猴類中ニテ頗美ナリ蓋此種類ハ毛色鮮明ナラズト雖、頗美麗ノ小動物ト云テ可ナリ又其身長ハ鼻ヨリ尾マテ大凡一尺アリ尾ハ一尺ヨリ稍長クシテ體軀ノ上部ハ稍光澤アル褐色ナリ

白面轉猴 此種類ハ大サ前ニ記載シタル者ヘル、モンキ―ト相等シ然レトモ毛色ハ相異ニシテ額及眼ノ周邊ハ純白ナリ故ニ之ヲ白面轉猴

ト名ツク全體ノ毛ハ稍灰色ヲ帶ヒタル黃色ナレトモ脊ノ中部ニ至レハ其色稍薄ク體ノ下部ハ淡黃色ナリ、ホルト氏阿利那加河南亞米、上流及其近傍ノ林中ニ於テ此種類ノ群集棲息スルヲ見タリト云フ又此種ハ人ニ近接ストモ、ニテ恐怖ヒス亞米利加ノ土人及歐羅巴人ハ羊仔ノ如ク之ヲ家ニ畜養ス

有角轉猴 此種ハ其小ナク者ニ尚白面轉猴ヨリ大ナリ背毛ハ帶黑ノ葡萄酒色ニシテ脇腹ハ光澤アル葡萄酒色ナリ又其腹ハ赤色光澤アリ

テ頭手及尾ハ褐色ナリ

蜘蛛猴
スハイ
ルモキ

此動物ハ歪阿那及伯西爾ニ棲息スル

第百十九圖



蜘蛛猴
スハイ
ルモキ

ハ「スパイドル、モンキ」及「コーチ、モンキー」等

者ニシテ其種類甚多シ常ニ
果實ヲ食ヒ卷纏スベキ尾
ルヲ以テ容易ニ此技ヨリ彼
枝ニ移ルコト極メテ輕捷ナ
リ蓋此尾ハ手ノ如キ用ヲ成
シテ其機巧ナルコト恰モ象
ノ鼻端ノ如シ又此種類中ニ

リ此猴ヲ「スパイドル、モンキ」ト名ヅケシ所以
ハ其手ノ長クレテ柔軟瘦瘠ナルコト蜘蛛ノ形
態ニ似タルニ因リテナリ

跳猴
サイン
ス

此猴ハ亞米利加ニ産スル地ニ棲ム猴ニシテ數

第百二十圖



跳猴
サイン
ス

名ノ博物家之ヲ被毛有尾ノ「サ
パジヨウ」ト混ジタレドモ全ク
別種類ノ者ナリ且尾ノ「サパ
ジヨウ」ヨリモ頗長キモノ往々之
アリ此尾ハ使シテ卷纏スベキ

者ニアラザレドモ總ヘテ長尾ハ自在ニ之ヲ屈伸運動シ得ルヲ以テ此猴モ亦必此尾ヲ屈伸運動シ得ルナラン又「サゴイン」スノ中ニハ其長尾ヲ身體并ニ樹木等ニ卷クモノアリト雖モ決シテ「サパシヨウ」ノ如ク之ヲ樹枝ニ卷キ倒懸シテ空ニ翻リ或ハ手ノ如ク之ヲ使用スルコト能ハス

此猴ノ體軀ハ長細ニレテ稍貂鼠ニ類似シ毛ハ柔軟ニレテ尾ハ全ク毛ヲ被レリ指ノ爪ハ鳥爪ノ如キ鉤狀ニ非ザレドモ其中間ハ弓形ニレテ

被ク稍尖銳ナルモノナリ又「サゴイン」ス及之ト同レ習慣ノ動物ハ潛ニ食物ヲ竊掠スルモノアリ且此種ハ林中ニ棲息スル動物ノ如ク敏捷ナレドモ多クハ喬林ニ棲マズレテ晝間ハ矮小ナル樹林或ハ岩窟ノ中ニ潛伏ス然ルニ上條既ニ記載セル真猴類ハ大概林中ニ棲息スルモノナラニ此猴ノミ地中ニ棲息セル故ヲ以テ之ヲ「オビゼン」即地棲猴ト名ヅク

栗鼠猴義 此猴ハ諸真猴類中ニテ毛色最美ナ

ル者ノ一ナリ故ニ其名稱數多アリ或人ハ之ヲ

オールラサパジヨウト名ヅケ「ブーホ」氏ハ之
ヲ「サイミリ」ト稱ス蓋此名蓋阿那^{ギムイアナ}前ニ住スル亞
米利如土人ニ依リテ命ラレタルモノト考定ス
又「フムボル」氏ハ阿利那加ノ河岸ニ在リテ此
猴ヲ總稱シテ「ナ」ト云ハルコトヲ發明セリ
又或人ハ「サイミリ」ト「チ」トヲ別種類ノモノ
トシテ記載セリト云フ

又栗鼠猴ハ體軀甚小ナレドモ極メテ敏捷ニシ
テ愛ス可キモノナリ體ノ長ハ大凡九寸ニシテ
尾ハ一尺一寸乃至一尺二寸アリ面ハ肉色口ハ

淡黒色ナリ體軀上部ノ毛色ハ帶黃灰色ニシテ
其下部ハ淡黒ナリ耳輪軟骨ノ凹處ニ生ズル長
毛モ亦淡黒色ナリ

此猴ノ情ヲ動スコト甚容易ニシテ喜情ヨリ哀
情ニ轉移スルコト恰モ人ノ小兒ニ於ルガ如ク
若強ノ哀情ニ感動スレバ涕淚眼中ニ滿ツ且此
猴ハ尋常ノ事件ニ於テ輒怒ラザルモノト見ユ
天稟ノ性質ハ相共ニ群集シテ棲息シ多クハ蟲
類ヲ食ヒ亦果實及矮小ナル草木ノ芽ヲ食フ此
猴ハ大ナル動物ニ向ヒテ全ク害ヲ爲サズルコ

ト、其美麗ニシテ快活ナルコト、ニ因リテ好
ミテ之ヲ畜養スルモノ多シト云フ
栗鼠猴ノ蟲類ヲ擒ルトキ其輕捷ナルコト實ニ
驚クベシ且其嗜好スル蟲類ノ形狀ヲ能ク認知
シテ假令紙上ニ畫ケル黒色ノ蟲狀ト雖モ尚能
ク之ヲ攫ム者ナリ又同ジ紙上ニ同大ノ蟲類ア
リトモ其嗜好セザル者ハ決レテ之ニ觸ル、コ
トナレ故ニ「ムボル」氏ハ此猴ヲ稱シテ蟲畫
ノ鑒定者ト爲セリ斯ク此猴ノ蟲類ヲ能ク審判
スルコトハ尚未^タ喫驚スルニ足ラズ蓋蟲類ヲ覘

ミテ之ノ攫食スル諸動物特ニ夜間餌食ノ動如
ハ眼光甚強健ニシテ物ノ映像ヲ大ナラシムル
ノ視力アリ故ニ遠方ノ物體ヲモ能ク諦視スル
モノナリ
又栗鼠猴ハ直ニ口ヲ以テ食物ヲ採ルコトアリ
或ハ手ヲ以テ之ヲ採ルコトアリ然レドモ手ヲ
用井ルコト多シ其甚小ナル手ヲ以テ速ニ飛去
スル所ノ蟲類ヲ捕フルニ實ニ妙功駭奇ト謂フ
可シ此ノ如ク手ヲ以テ甚巧ニ蠅ノ翅ヲ握ルヲ
能ク之ヲ捕ヘ得ル者他獸ニハ恐ラクハナカル

ゞい

寡婦猴義譯

此種類ハ栗鼠猴ト殆同地方ニ産ス

レモ甚稀少ナルモノニシテ其記事モ亦罕ナ
リ毛ハ柔軟ニレテ胸ノ前面ヲ除クノ外光澤ア
レ黒色ナリ前手ハ白色ニレテ面ハ白色中ニ稍
藍色ヲ帶ビ眼ノ周邊ハ深藍色ソニ線ヲ轉回セ
ルモノナリ

假面猴義譯

此種類ハ伯西爾ニ産スルモノニシ

テ多クハ大河岸上ノ林中ニ棲息ス體軀ハ前ニ
記載セル二者ヨリモ大ニシテ其全長大凡二尺

五寸ナリ蓋其體ノ頭ト尾トノ長ハ大抵皆相等
シ

襍積猴

義

此種類モ亦伯西爾ニ産レテ邦内ノ西

部ニ多シ

體軀ハ前者ヨリ大ニシテ大抵栗鼠猴

ノ二倍ナリ

頸環猴

義

此種類ハ伯西爾ニ産スルモノト考

定ス然レドモ其棲息スル景況ハ絶エテ知ル者
ナシ

モロコ猴

此猴ハ伯西爾ニ産レテ其種類極

テ稀少ナリ體ハ大サハ大抵栗鼠猴ノ二倍ナリ

「ド」ロコウリ夜猴 イヌチン 此種類ハ形體毛色及毛ノ組織ニ於テ亞米利加熱帶地方ニ産スル諸猴類中ノ最モ奇異ナルモノトス其他各地ニ産スル猴類中ニテモ亦最奇ノモノタリ其身長ハ大凡二尺許體ノ上部ハ固有ノ灰色ニシテ頭毛ハ黑白兩色ノ環アリ

此動物ハ晝間ノ日光及日熱ニ堪ヘ難シ故ニ晝ハ全ク睡眠シテ過グ其睡眠ノ狀甚奇ナリ先後手ノ兩掌ヲ腹上ニ置キ此上ニ前手ノ兩掌ヲ置キ務メテ頸骨ヲ曲ケ頸ヲ前手ノ間ニ挿キ一頭

ヲ俯テス斯ク奇異ナル形狀ヲ爲スハ其脊骨中ニ存スル彈力ヲ保護スル爲ナラニ蓋此脊骨ニ彈力ヲ有スルコトハ夜間動作ヲ爲スニ於テ最緊要ナルモノト見ユ且此動物ノ長尾ハ大概卷纏ス可キモノニ非ス然レドモ容易ニ之ヲ屈曲ス可キモノナリ

晝間此動物ノ睡眠スル所ハ樹木ノ空窩或ハ出入便利ナル坑孔ノリ蓋此等ノ孔窩ハ皆動物ノ自ラ掘リタルモノニ非ズ然レトモ熱帶地方ノ林中ニハ樹木ヲ耗蝕スル蟲類數多アリ入林

空窩ヲ穿ツコト甚夥多ナリト云々
 又此動物ヲ捕ヘ置クトキハ能ク麵包果實及乳
 汁ヲ食フ然レドモ其林中ニ棲息スルトキハ好
 ミテ津液多キ果實及日キ植物ヲ食フモノナリ
 叫號夜猴 此種類ノ名稱ハ夜間叫聲ヲ發スル
 ニ因リテ名ヅムレモノナリ
 今前ニ記載シタル「ド」ロコナリ夜猴モ亦夜間
 叫聲ヲ發スルナリ
 此猴ノ身體上部ハ前種ニ異リ赤色ヲ帶ブルコト
 濃ナリト云々

班猴ノ類

第百二十一圖



班猴
オイスナナ

此猴ハ頭顱圓ク口短ク長尾ニレテ毛ヲ被
 四掌ハ鈎狀ノ爪ヲ具ヘ其樹木
 フ攀ルニ四手ヲ以テレ諸物ヲ
 捉ルニハ爪ヲ以テス其運動ス
 ル景況及容貌ハ他ノ諸猴類ヨ
 リモ甚栗鼠猴ニ肖タルモノナ

班條猴即尋常班猴 此種類ハ奇異ノ小動物ナ
 レドモ却テ稀少ナル者ニ非ス頗可憐ニレハ畜

養レ易レ而レテ此種ハ衆人ノ能ク認知セルモ
ノニテ之ヲ愛スル者亦多シ身長ハ大凡ハ八寸尾
ハ一尺一寸ナリ此尾ハ甚細クレドモ毛ヲ被ル
ガ爲ニ真ノ大サヨリ頗大ク見ユルナリ又體ノ
上部ハ全ク長毛ヲ被リテ其毛ハ一莖毎ニ毛根
ニ環狀ノ白色有リテ次ハ黄色次ハ黑色又其次
ハ白色ナリ斯ク數色ヲ雜フルガ爲ニ全體ノ毛
色ヲレテ灰色ヲ帶ビタル黄色ヲ爲サレム
白唇タマリシ此種類ハ獼猴類中ノ最小ナル
者ニレテ往々耳アルニヤクテスト名ヅクルモ

ノナリ又之ヲ獅子タマリシト稱ス安的斯南亞
加ノ東部ニ産レテ身長ハ七寸五分尾ノ長ハ
八寸ナリ亞米利加ノ王人ハ之ヲ籠中ニ飼養ス
ル者多シ其之ヲ養ヒ置クトキハ衆鼠猴ノ如ク
輕捷ニレテ沈着ヲザルモノナリ此猴激怒ス
ルトキハ背脊ヲ突起レ鬚毛ヲ堅立シテ恰モ自
強大ナル獅子ナリト自負スル者ノ如シ故ニ之
ヲ獅子猴ト名ヅク

此動物ハ獼猴鼻猴ト稱スルモノナリ
其生敏捷ニシテ果實ヲ食ヒ馬達加斯亞非利加
島名

身ノカ
大ノカ
小ノカ

ニ産殖ス此種ハ真猴類ニ肖タル者ヲ具シテ身
長ハ三尺ナリ馬達^{マダガスカ}加^{マダガスカ}斯人ハ犬ノ如ク之ヲ馴致
スト云フ又印度ニ産スル^{マダガスカ}人ロウ、ロリム^{マダガスカ}即マシ
ガル、人ロ^{マダガスカ}トハ此屬中^{マダガスカ}アリ

榊原芳野 校

貝氏博物學卷之四終